

平成 24 年度から日本放射線影響学会の会長を務めるにあたりまして、本学術領域に関係されます皆様にご挨拶申し上げます。本学会が昭和 34 年に設立されてから半世紀が経過し、多くの方々のご尽力により、放射線の影響に関する数多くの知見が得られています。その一方で、本領域の成果によって解決することが期待される多様な課題は、依然として山積みの状態であります。確かに、学術的な成果は年々蓄積されていきます。しかし、現在の科学研究においては、質の高さが要求されるあまり、仔細な専門性が優先され、社会における科学研究の本質的なことを見失いがちになることもあるかと思えます。この傾向は、放射線影響研究に限らず他の領域でも最近では話題になることが多いのですが、本領域は多様な自然科学と人文科学が協調してこそ成り立つゆえに、この問題の重大さは抜き出ていると思えます。したがって、自らの専門性を探求するとともに、長い年月にわたる地球の歴史において、人類が築き上げてあげている科学はいかにあるべきかを常に問いただす姿勢を、私たちは忘れてはならないと思えます。特に、本領域は直接的に命に関わるゆえに、その尊さを根幹としたあり方が問われます。現実はこのように言葉で表すほど単純ではありませんが、皆様の最大限の英知と相互に尊重する人間性が発揮されることにより、永きにわたる人類の幸せを祈願いたします。

宮川 清